令和８年度　９月定例会会議録

◎開 催 日 時　　令和８年９月２８日（月）　午後１時３０分～午後３時０３分
◎場　　所　　伊那市役所　庁議室
◎出 席 委 員　　福與教育長、宮坂教育長職務代理者、中村教育委員、神山委員
◎欠 席 委 員　　黒河内教育委員
◎出 席 職 員　　北原教育次長、北原学校教育課長、矢澤教育環境整備課長、柴生涯学習課長
北澤市誌編さん室長、塚越社会教育指導員、髙嶋指導主事、小島指導主事、
北原こども部長、澁谷こども政策課長、宮下子育てサポート課長、
牧田教育総務係長

１　開　　会

２　あいさつ　教育長

・９月後半は雨の日が続く中、小学校では運動会を終えた学校があり、練習が十分にできない状況の中でも子どもたちは当日精一杯取り組んでいたと聞いている。また、今週末には市内６校の中学校で文化祭が予定されており、教育委員にも時間の許す範囲で参観をお願いしたい。

・８月末に文部科学省から示された学校教育に関する動きとして、次期学習指導要領に向けた中教審の骨子素案では、多様な子どもたちの深い学びを確かなものにすることを基本理念とし、「主体的・対話的で深い学び」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」を柱として、授業時数の柔軟な運用を可能とする調整授業時数制度や、不登校児童生徒、特異な才能のある児童生徒に対する特別な教育課程の編成、総合的な学習・探究の時間への『情報』領域の導入、中学校の技術・家庭科の分離と技術情報分野の見直しなどが検討されているので紹介した。

・10 月１日から、いわゆるカスタマーハラスメントに関する事業主の義務づけが法的に位置づけられることを受け、文部科学省が「学校と保護者・地域住民等とのより良い関係構築のためのガイドライン」を策定した。伊那市としても、これをどのように受け止め、学校現場にどのような制度やガイドラインを整えていくかが課題であり、今後、教育委員の意見もいただきながら進めていきたい。

３　委員のひと言　神山委員

４　会議事項

第１　教育長報告

・８月 30 日に市総合防災訓練が長谷地区で開催され、メイン会場となった長谷中学校では、地域住民による避難所設営訓練が行われた。長谷小中学校の児童生徒も参加し、テントの組立てや段ボールベッド作りなどを体験した。高齢者の多い地域であることから、学校の子どもたちの力は大きく、重要であることを改めて感じた。また、この際にはしご車が出動し、長谷中学校３階からの避難体験も行われ、今後、機会があれば子どもたちにも体験させたいと感じた。

・９月２日に上伊那教育財政懇談会が開催され、県議会議員の出席のもと、上伊那教育７団体による本年度の意見・要望について理解を求めるとともに、助言をいただいた。11 月に県へ要望を行う予定であり、力強い支援を得られる懇談会となった。私からは、児童相談所の上伊那地域への早期設置について改めて要望した。

・９月８日から 10 日まで市議会一般質問が行われた。教育委員会に対しても、市議会議員から３日間にわたりさまざまな視点から意見や要望が寄せられた。市教育委員会としての取組の方向について理解を得ながら、進めるべきことは着実に進めていく必要があることを改めて感じた。

・９月 24 日に高遠城址南曲輪の試掘現場を視察した。南曲輪には、かつて内藤家の時代に庭園があったとされる絵図が見つかっており、その信憑性や遺構の有無を確認するため、昨年度に続き今年度２回目の試掘調査が行われている。現場では、絵図に沿った遺構と思われるものが確認されており、10 月４日には市民向けの現地説明会を予定している。絵図の確かさを改めて感じるとともに、今後の調査結果の取りまとめによってどのような全体像が見えてくるのか期待している。
・９月 25 日に、まほら伊那市民大学修了生への修了証書授与式が行われた。今年度の修了生は 22 人で、そのうち 13 人が皆勤で、精勤を含めると大半の修了生が熱心に学習に取り組んでいたことがうかがえた。式後の学生自治会主催による祝賀会も非常にアットホームな雰囲気で、仲間づくりが進んでいることを感じ、地域の中にこうした良い雰囲気があることをありがたく感じた。

第２　協議事項

（１）教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について

・各課長、室長から資料に基づき説明
・教育委員から「中間教室の評価をＡとした判断基準について、改めて伺いたい」との質問があった。これに対し学校教育課長から「中間教室については、児童生徒の居場所の確保や指導相談を行う事業であり、夜間部や寺子屋・伊宝館の運営など、児童生徒に寄り添った多様な学びの場の確保と提供に努めている。特に夜間部は近隣市町村の中でも珍しい取組であり、運営に当たる職員の成果も大きいと考え、Ａ評価とした」との説明があった。
・別の教育委員から「除外した事業が３つあるとの説明であったが、除外後はどのような取扱いとなるのか決まっているのか」との質問があった。これに対し学校教育課長から「該当事業は機構改革により教育委員会の所管ではなくなったため、法律で定める教育委員会事務事業の点検・評価の対象外となったものであり、事務自体は備考欄記載のとおり、こども部が担当しており、滞りなく進められている」との説明があった。
・また別の教育委員から「32 ページの高遠美術館について、イベントは斬新で地元作家も生かされており内容は良いと感じるが、入館者数のみでＣ評価とするのは残念に思う。やはり数が大事という理解でよいか」との質問があった。これに対し生涯学習課長から「評価いただきありがたい。昨年度も入館者数の目標達成を目指したが達成できず、今年度もＣ評価とした。来年度は子どもたちを呼ぶ企画も予定しており、入館者数の増加を図りたい」との説明があった。さらに教育委員から「入館者数の目安はどの程度を目指しているのか」との質問があり、生涯学習課長から「できれば 8,000 人から 9,000 人程度の入館を目標としている。桜の時期の影響を受けやすい面もあるが、来年度は高橋まゆみさんの人形展の開催を予定しており、公民館にも声をかけながら、多くの市民に来館してもらいたいと考えている」との説明があった。
・原案どおり決議された。

（２）伊那市いじめ防止基本方針の改訂について

・学校教育課長から資料に基づき説明
・質問、意見はなく、原案どおり決議された。

第３　報告事項

（１）「中学生の自習室 2026 夏」の実績報告について

・学校教育課長から資料に基づき説明
・教育委員から、「学習ボランティアについて、ひとり親家庭を対象とした長期休業中の学習支援にも高校生ボランティアが参加しており、子どもたちが安心して学習に取り組んでいる様

子が見られることから、高校生の活用は有効であると感じている」との発言があった。これに対し教育長から、「小学生を対象とした『おいで塾』でも高校生が参加し始めており、そのような事例も参考にしながら進めていきたい」との発言があった。

（２）伊那市中学生キャリアフェス２０２６の開催について
・学校教育課長から資料に基づき説明
・教育委員から、「司法書士としてこれまでブース出展の立場で関わってきているが、現在は教育委員として異なる立場から関わることができ嬉しく感じている。毎年参加する生徒は異なり、それぞれに特徴があるため、今年の生徒たちがどのような話をするのか楽しみにしている」との発言があった。
・教育長から、「実行委員の生徒 12 人が熱心に準備を進めており、それを支える大人の実行委員の協力も大変ありがたい。手弁当で力を貸していただけることが、この伊那市中学生キャリアフェスの良さであると感じている」との発言があった。

（３）第 40 回伊澤修二記念音楽フェスティバルについて
・生涯学習課長から資料に基づき説明
・教育長から、「今回は第 40 回の記念大会として、第２部を新たに設けたため、ややタイトな日程となっているが、中学生の演奏も聴いてもらえればと思い取り入れた。参加後に感想を聞かせてほしい」との発言があった。

（４）伊那市歴史文化講演会
・生涯学習課長から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

（５）長谷地区生涯学習講演会について
・生涯学習課長から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

（６）人権同和教育事業について
・社会教育指導員から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

（７）市誌編さん事業の進捗状況について
・市誌編さん室長から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

（８）夏期休業特別学童クラブ実施報告について
・こども政策課長から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

（９）来月以降の文化施設の行事日程について
・生涯学習課長から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

(10) 共催・後援について
・学校教育課長から資料に基づき説明

（質問・意見なし）

5　その他

（1）次回定例会について

（2）11 月以降の主な行事予定について

（3）本日の総合教育会議について

6　閉　会